

## 主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

### 1. 対象 高等部3年生 11名

- ・軽度知的障害があり、卒業後に就労（企業就労、福祉的就労）を目指している集団。
- ・学習指導要領国語中学部1段階～高等部2段階に相当する生徒が中心。
- ・落ち着いて、前向きに学習に取り組むことのできる生徒が多い。
- ・1、2年時には、百人一首大会に向け意欲的に練習に取り組んだ。一方で、長文の古典作品の読み取りは本単元が初めてである。

### 2. 単元名 「タイムスリップ平安時代～1000年前と今の『同じ』と『違い』を見つけよう～」 (全6時間)

### 3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	親しみやすい古文などの文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。 【高等部2段階ウ（ア）】
思考力，判断力，表現力等	文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 【C読むこと 高等部1段階オ】
学びに向かう力，人間性等	平安時代と現代の比較を通して、自分なりの面白さを発見し、古典に関心をもち主体的に学習活動に取り組もうとしている。

### 4. 本時の目標 省略

### 5. 授業展開【 単元 】

#### 解決したい課題や問い

1000年前と今を比べて、「同じ」と「違い」を見つけよう。

#### 考えるための材料

- ・「竹取物語」原文と現代語訳→内容を精選し、ワークシートにする。
- ・「竹取物語（かぐや姫）」に関する絵本やアニメ化された映像など、視覚的で生徒が物語をイメージしやすくなる副教材
- ・平安時代の暮らしに関する、写真やイラストなど、視覚的で生徒がイメージしやすくなる資料
- ・本文に書かれていることの動作化（生徒本人にやってもらう、あるいは教員が示範する）

#### 想定される活動

- ・物語の内容を、現代の自分たちの生活や、自身の経験と比較する。
- ・比較を通し、1000年という時間を経て変わるものと変わらないものがある面白さに気づく。

## 対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

### ○設定する対話の方法

- ①いきなりグループ活動に入るのではなく、個人で思考し、考えを整理する時間を保障する。
- ②話し合いの方法をルール化し、生徒が見通しをもって取り組めるようにする。
- ③グループを原則として固定し、生徒が安心して話し合いに取り組めるようにする。

### ○対話や思考のプロセス

2、3時…「同じ日本語なのに、全然読めないよ。」「でも、なんとなく意味がわかるところもあるね。」「僕は音読が楽しい。リズムが今の日本語と違うところが面白い。」

4時 …「1000年前と今では、着ているものとか、ご飯とか、生活が違うね。」「僕は、今の食生活の方がいいなあ。」「私は、綺麗な着物が着られて羨ましいなあ。」

5時 …「大切に育てたかぐや姫が、月に帰ったら自分たちのことを忘れちゃうなんてかわいそう。」「おじいさん、おばあさんはとても悲しいと思う。」「1000年前の人も、今の人も、さみしいとか悲しいと思うのは同じなんだね。」

## 学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

「1000年前のお話だから、『違い』ばかりだと思っていた。でも『同じ』もたくさんあった。」と気づく。

「同じ日本語なのに、読み方や書き方、意味が違うものがあった面白かった」と気づく。

「1000年前と今とでは、着ているものとかご飯とか、生活が違うことが分かった。自分に置き換えてイメージしてみても楽しかった」という気持ちをもつ。

「1000年前の人も今の人も、同じ人間なんだな」と気づく。

「修学旅行で、今回の授業のことを参考にしたい」という気持ちをもつ。

## ★参考★授業計画

次	時	活動
1	1	・解決したい課題や問いの共有 ・「竹取物語」（冒頭）の音読
2	2	「竹取物語」（冒頭）読み取り
3	3	<u>言葉の「同じ」と「違い」</u> ・音読 ・初読の感想 ・意味調べ→現代語訳 ・原文と現代語訳を比較して、気づいたことをグループで話し合う。
4	4	「竹取物語」（中盤：宮中での生活）読み取り <u>生活の「同じ」と「違い」</u> ・音読 ・平安時代の住まい、服装、食生活などの映像や資料を見て、気づいたことをグループで話し合う。
5	5	「竹取物語」（終盤：月に帰るかぐや姫） <u>人の気持ちの「同じ」と「違い」</u> ・音読 ・グループごと、かぐや姫、翁、媼の3人に焦点を当て、それぞれの気持ちを想像する。
3	6	まとめ